

# ちよつといひ話

## ～生活の規範～

〔「念佛法語」の中に夫一切衆生三悪道をのがれて人間に生るゝ事、大いなる喜びなり。身はいやしくとも、畜生におとらんや。家まずしくとも、餓鬼にはまさるべし。心に思うこと叶わずとも、地獄の苦しみには、くらぶべからず。世の住み憂きは、厭う便りなり。人数ならぬ身の卑しきは、菩提を願う導なり。此の故に人間に生るゝことを喜ぶべし。〕三悪道とは上記の地獄、餓鬼、畜生の事です。今まさに人間である事を十分に感謝し孝養を尽く次の世は天人以上に生まれて来れるように精進しましょう。四国遍路の祖、衛門三郎の様に

十方に浄土は多けれど西方の浄土を願うのが一番である事は浄土教の祖、法然上人が申されております。

十方とは八方に上下を加えた世界の事です。その中、西方10万億土に阿弥陀様が作る極楽世界があります。阿弥陀様は本願に因って、我々が弥陀の浄土へ行きたいと来世を願い、お念仏を称えれば迎えて下さるのです。そして次の世で少しでも良い環境の下に生まれ出る準備をして下さいます。我々の命終にはかなり覚悟がいます。定年を迎え愈々と思うまもなく死ぬ方もみえます。何時死んでもおかしくない時代です。少しでも早く来世を願う念佛を称えておきたいものです。死んだあとは〔「無常和讃」に、つれもなければ只一人、行き先知らずに門を出て、永の旅路をトボボと、頼むは西方弥陀如来、云々、親兄弟や妻や子を、云々、仲睦まじくしておくれ、先立つものの追善に、念佛信心あるひとを、云々、百万遍や御回向を、怠りなしに唱うべし、云々、南無阿弥陀仏、阿弥陀仏。〕ちなみに法然上人は日に6万遍の念佛を称えられました。吐く息、吸う息1秒に1回念佛を称えて、10時間で3万6千遍です。我々も称名念佛を生活の規範にしたいものです。

善入院油掛地藏尊